

麻生区区民会議フォーラム

「循環型のまち・生ごみリサイクル」 ～生ごみ先生・いのちの循環と食育を語る～

■本日のプログラム■

13:30 開 会

13:40 区民会議報告

13:50 川崎市の生ごみの現状とその取り組み(環境局生活環境部減量推進課)

14:00 講 演 NPO法人大地といのちの会理事長 吉田 俊道氏

15:20 <休憩>

15:30 各取り組み団体による事例発表

・すぎのこ保育園

・福祉施設 はぐるま工房

・新あさお生きごみ隊

・株式会社 小田急ビルサービス

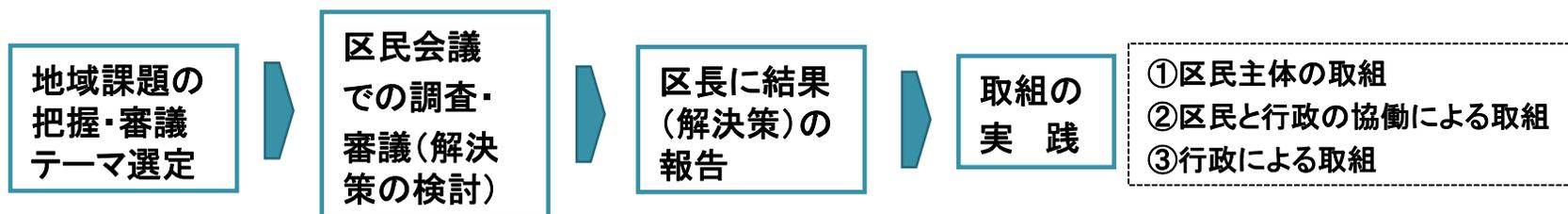
16:30 閉 会

1. 区民会議とは？

区民会議とは？

暮らしやすい地域社会を目指して、区民のみなさんが中心となって**参加**と**協働**により地域社会の課題解決を図るために調査審議をする会議です。

■ 区民会議を通じた課題解決の仕組み



【参考】

- ・川崎市自治基本条例第22条に「**区民会議**」を規定。
- ・それに基づき川崎市区民会議条例を制定。
- ・平成18年7月に第1期区民会議が立上り、現在**第3期目**。

2. 第3期麻生区区民会議のこれまでの経過

(1) 第3期区民会議立上げ(H22.7.1)

- ・委員構成 20名(団体推薦8名、区長推薦6名、公募7名)
- ・任期 2年(H22.7.1～H24.6.30)

(2) 地域課題の選定

- ・各委員からの提案
- ・提案箱、ホームページ等からの意見募集など



- ・取組課題の分類分け
- ・各専門部会設置(案)の策定
- ・全体テーマ(案)の立案



(3) 専門部会の設置



2つの専門部会を中心に具体的な課題の調査・審議を実施し、企画部会で調整。

3. 調査審議の状況

全体テーマ:「人と人と心をつなぐ地域づくり」

部会名	企画部会	地域交流・文化部会	環境・緑化部会
審議 テーマ		<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり 2 区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1 循環型のまち・生ごみリサイクル 2 グリーンアップ・里山ボランティア
テーマ (課題) の概要	<p>【運営要領で定められた事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 会議運営の事前調整 2 課題の整理及び調整 3 広報及び広聴について 	<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者などを地域で支え合うシステムの検討 2 しんゆり芸術のまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 1 生ごみリサイクルシステムの普及・啓発について 2 手付かずの緑地(市有地)の下草刈りなどを行う里山ボランティアづくり
調査 審議の 状況	<p>【部会 4回開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 専門部会設置(案)の立案 2 全体テーマの立案 3 区民会議ニュース編集・発行(3号まで発行済) 4 区民会議運営に関する調整 5 フォーラムの企画・調整 など 	<p>【部会 9回開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 区社協の事業に関する勉強会開催 2 町内会・自治会、ボランティア団体等へのヒアリング調査 3 区内芸術関係事業へのヒアリング調査 など 	<p>【部会 8回開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 ごみ減量対策、緑地保全活動の勉強会開催 2 横浜市資源循環局への訪問調査 3 「麻生区生ごみアンケート」調査の実施。写真展開催 4 里山ボランティア実施に向けた調整 など

4. 本フォーラムの目的

テーマ：「**循環型のまち・生ごみリサイクル**」

「生ごみ」は、他のごみと比べリサイクル化や減量化の余地があるのでは？

リサイクル化や減量化
が進むと…？

処理量削減による環境負荷の低減

処理費用の削減

ごみ置き場の美観維持

土に還し資源循環を体験

農作物への堆肥として活用

花などの植栽活動との連携

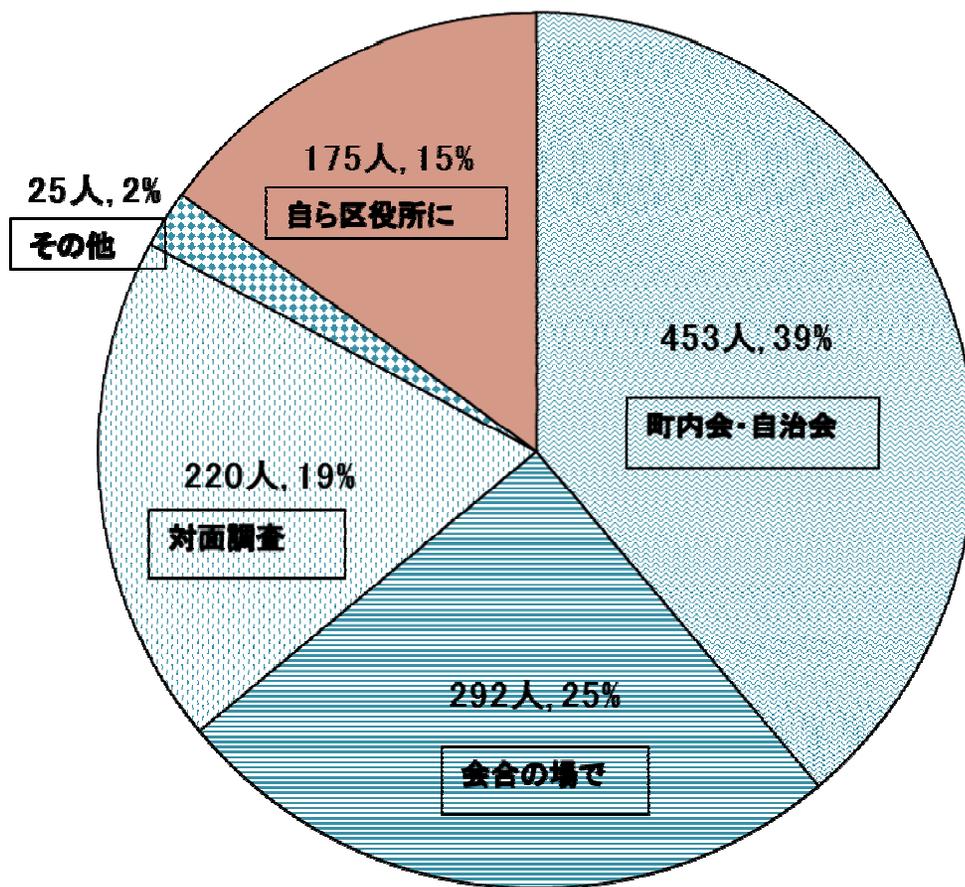


など

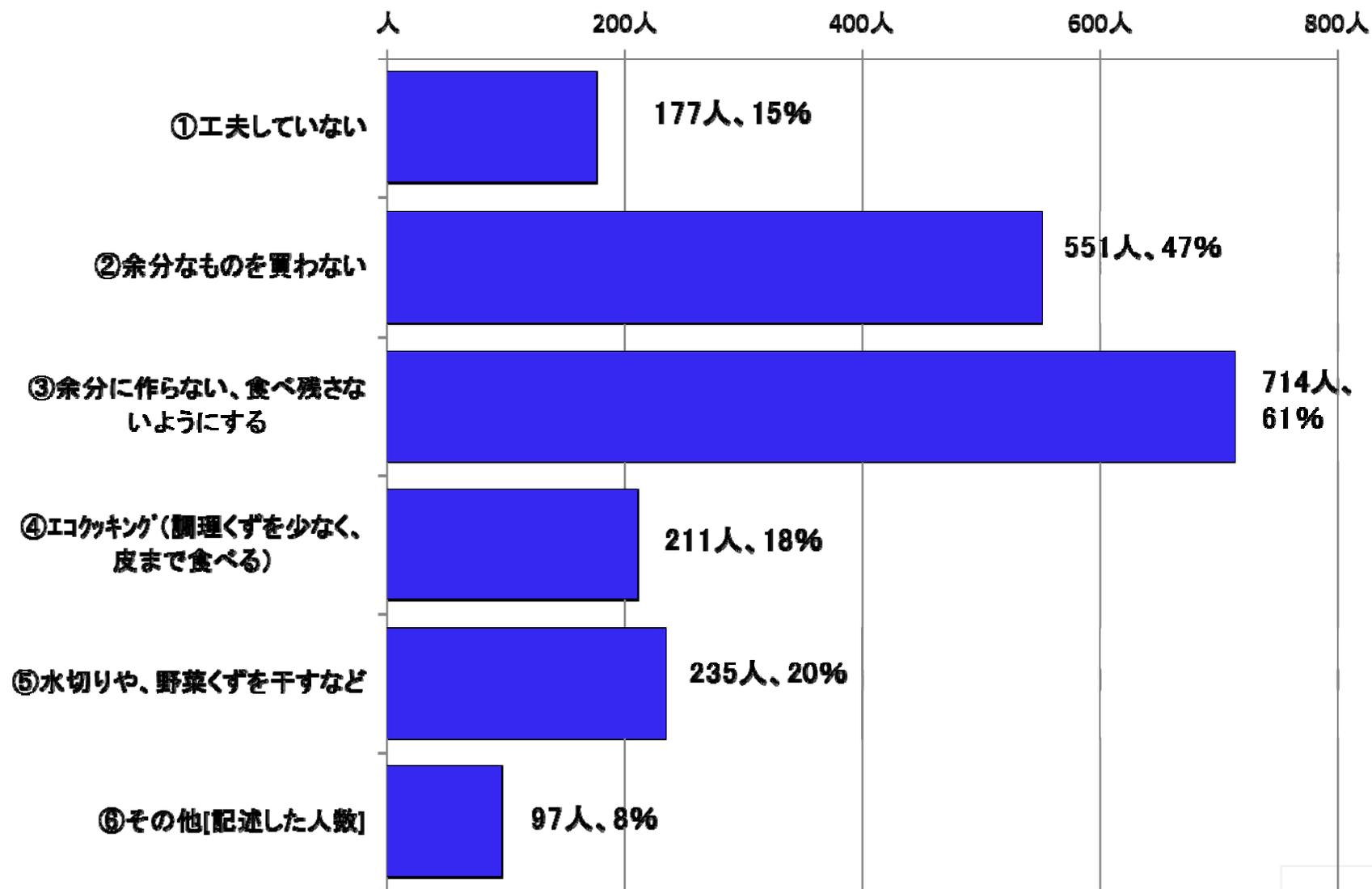
これまでの区民会議環境・緑化部会の取り組みを中心に、誰もが関われる「身近なエコ活動」として、ごみ減量に向けた取り組みについて考え、行動するきっかけにしよう。

5. 「麻生区生ごみアンケート」結果中間報告

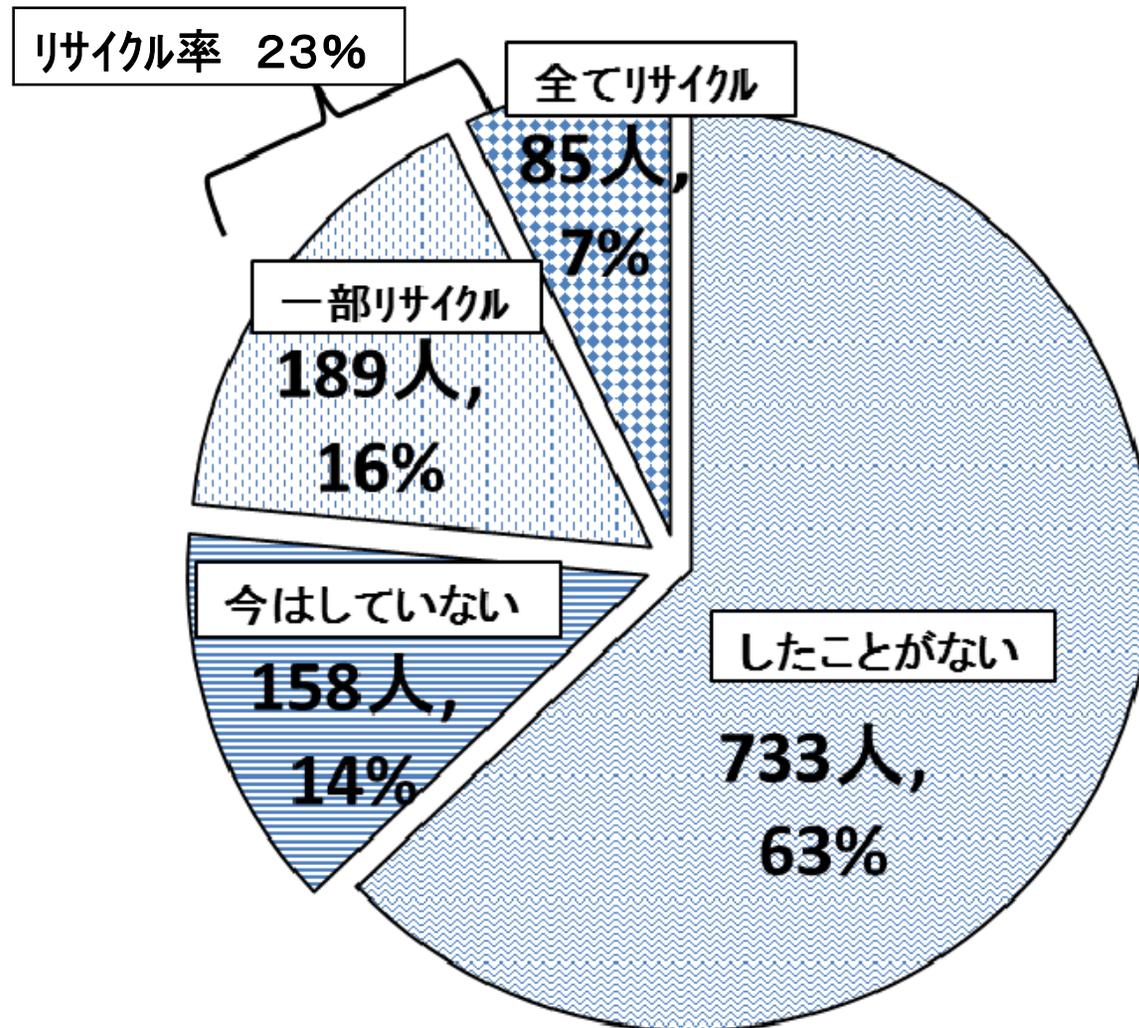
- アンケート実施期間：H23/5/25～7/31
- 対象：麻生区在住者
- 回収：1,165人(内記名者310人)



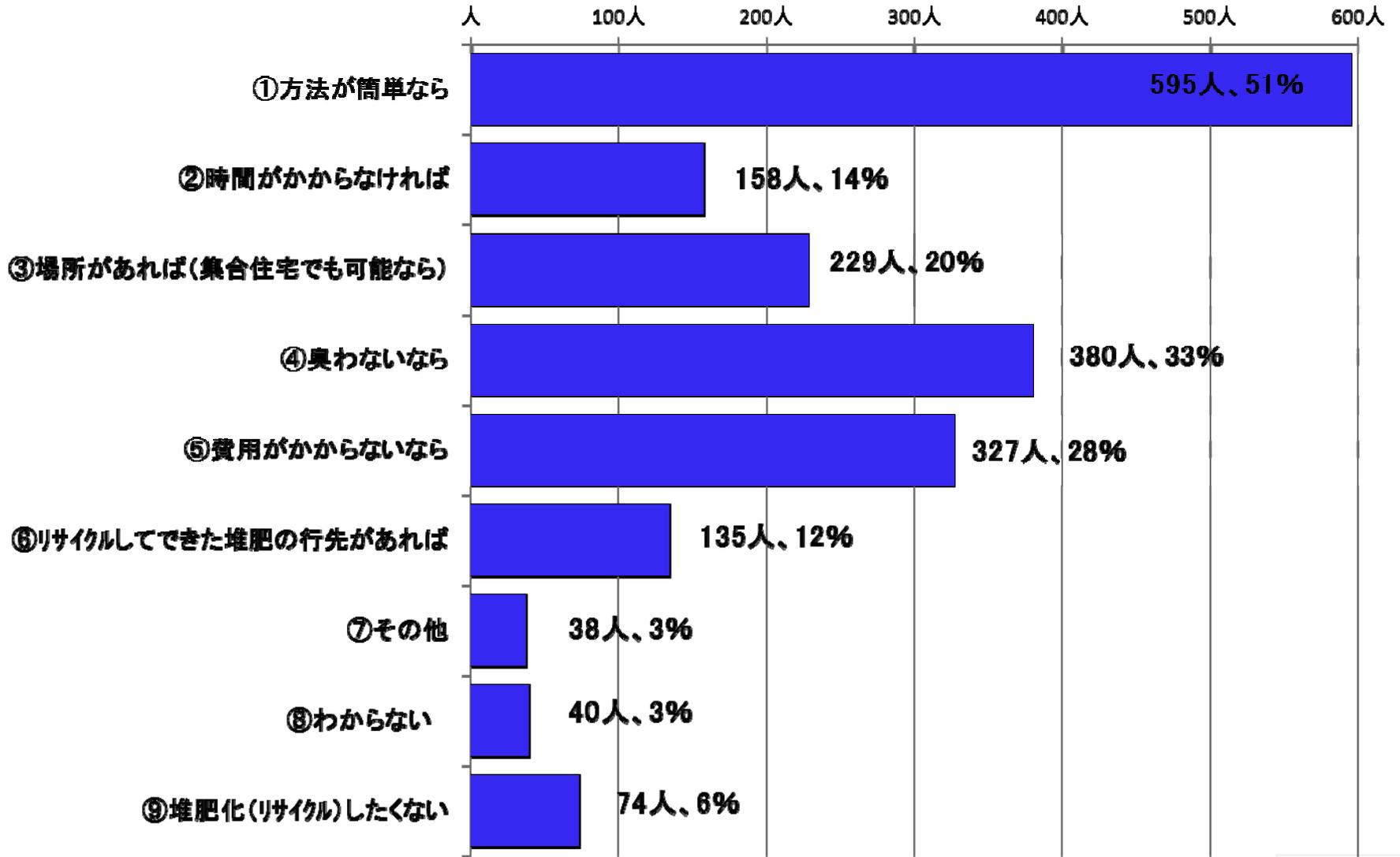
【A】1. 生ごみの減量について工夫していますか？【複数回答可】



【A】2. 生ごみをリサイクルしていますか？
または リサイクルしたことがありますか？

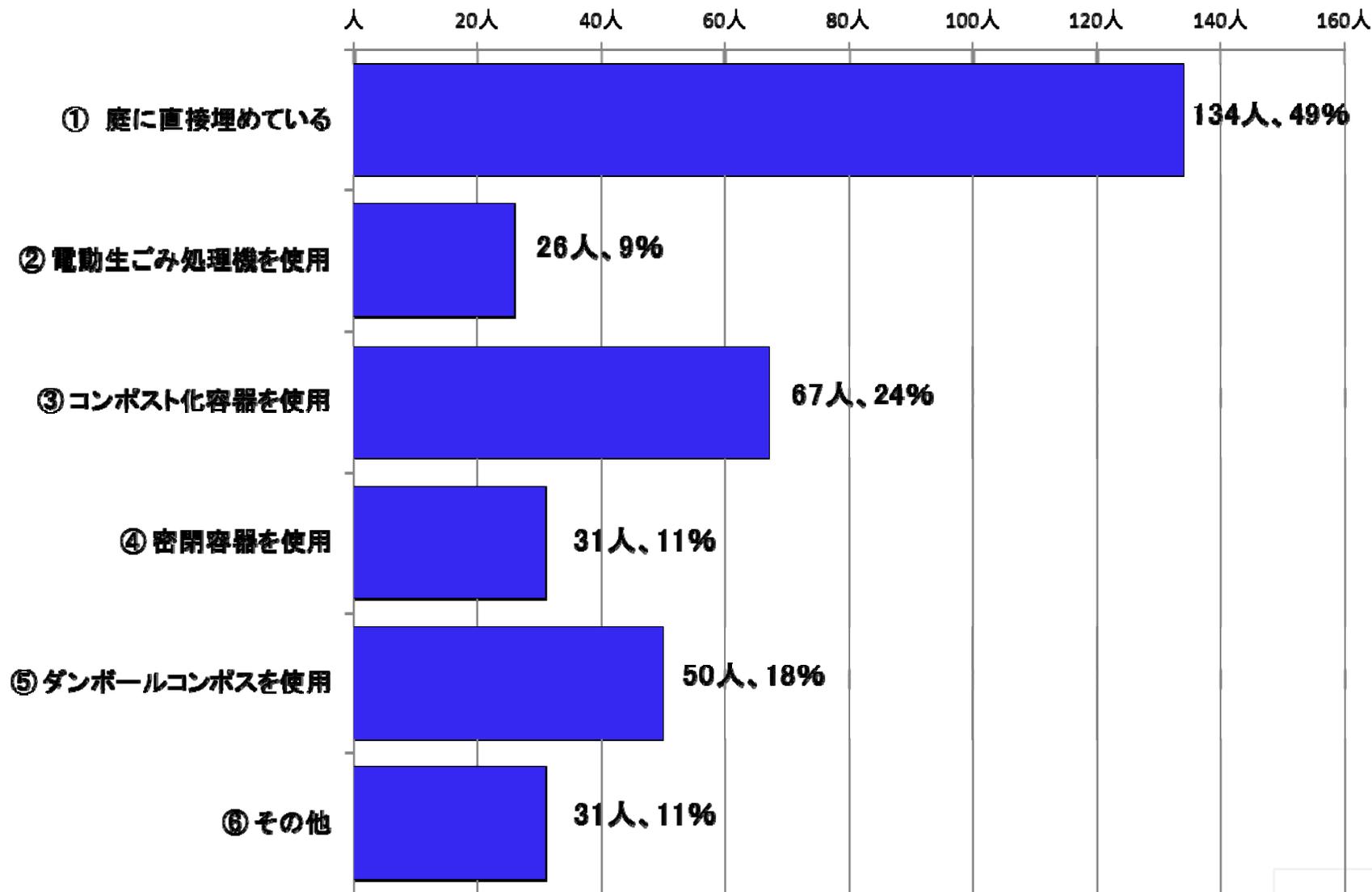


【A】3. 生ごみの堆肥化をしてみたいですか？ または堆肥化を続けるためには、
どんな条件があればできそうですか？【2つまで可】

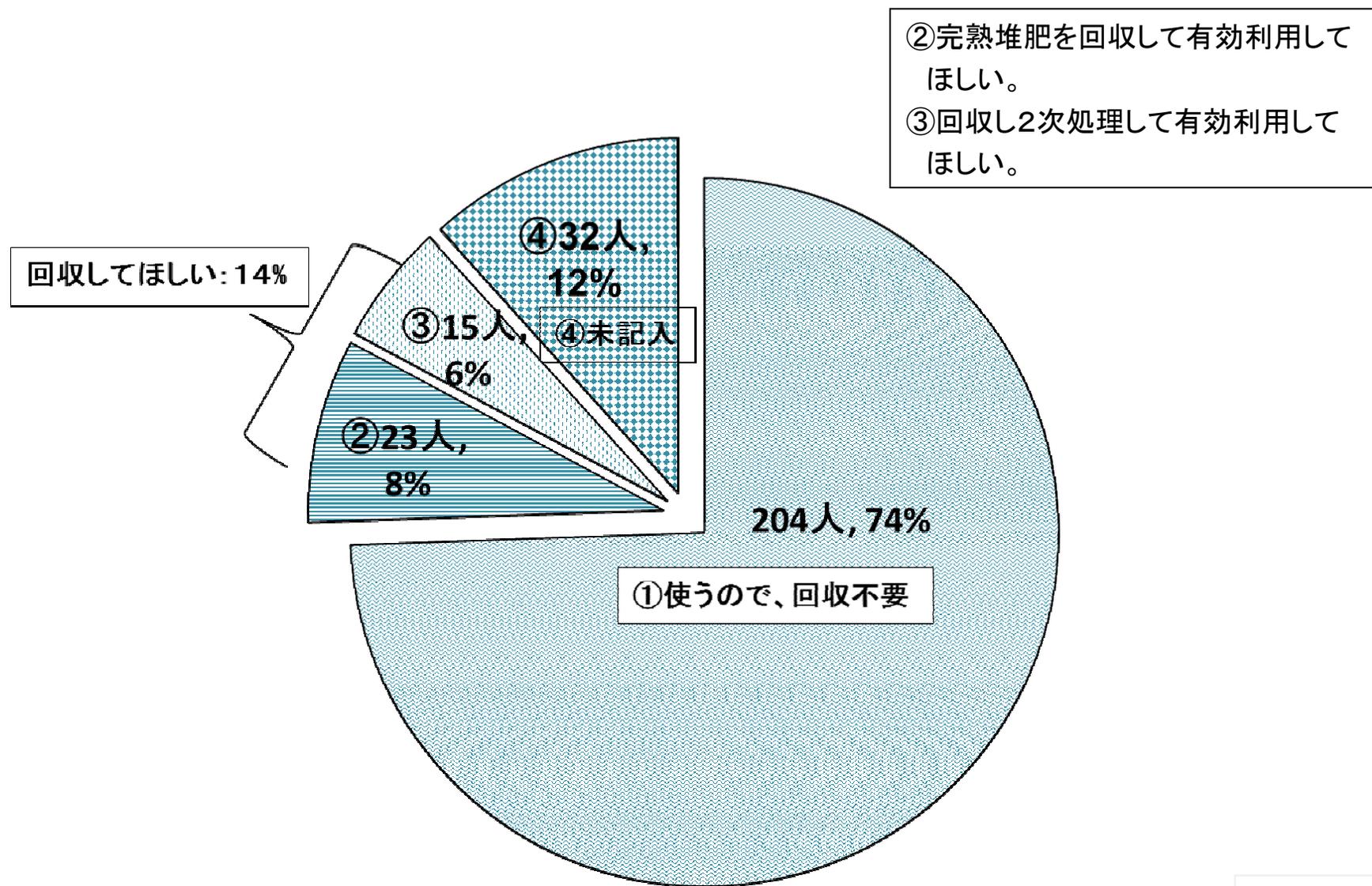


※%算出は、各回答人数/総回答者数

【B】1. あなたのしている生ごみリサイクルの方法は？【複数回答可】



【B】2. あなたのつくった生ごみ堆肥を回収してほしいですか？



【B】3. 生ごみリサイクルをされていて何かお困りのことはありますか？【自由記述：71人】

(一部抜粋)

1 手間、やり方

- ・畑に運ぶのが大変。
- ・野菜くずを干したり、生ごみを細かくするのが手数がかり面倒。
- ・電動処理機はかなり時間がかかる。
- ・基材などの購入が面倒

2 場所

工夫にもよりますが場所がない。

3 臭い

- ・庭に直接埋めると、臭うときがある。
- ・電動生ごみ処理機の容量が小さくて注意して扱わないと近隣に「におい」で迷惑をかけてしまう。
- ・ふたを開けたときに臭う。
- ・密閉容器の時、においが出て困った。
- ・生ごみに糠を入れて埋めていますが臭いが気になる。

4 堆肥の行先

- ・電動処理機で処理しているが、マンションのため家で堆肥として使えない。

5 困っていない

- ・庭の草木や草花に利用しているので困っていない。

5 虫、小動物

- ・小ばえが発生
- ・虫がつく
- ・夏にうじがわく
- ・かなり深く埋めないと猫や鳥(カラス)などに掘り返される。

6 費用

- ・電動処理機なので電気代がかかる。
- ・費用をもっと補助してほしい。
- ・基材の購入が何処でもできて、お安く手に入るといいと思う。

7 行政へ

- ・効率的に大量に生ごみをリサイクルする方法を考えて欲しい。
- ・生ごみの行方を発表して欲しい。
(活用方法があること等)
- ・ドイツ等の先進国では、集合住宅独自の生ごみ処理場を作り、住人の方がバケツで生ごみを処理場に運び、肥料化していると聞きました。日本の集合住宅でも、このようなシステムができることを願っています。まず、住居数の多い公営の集合住宅から、生ごみ処理場の設置を義務付けるよう指導して頂きたい。

6. 横浜市資源循環局訪問報告

- 1 訪問日 平成23年6月14日(火)
- 2 対応者 横浜市資源循環局 職員3名
- 3 訪問者 環境・緑化部会 3名
事務局 1名
- 4 調査対象
 - ・生ごみマイスター(生ごみ堆肥化)実証実験
 - ・家庭系生ごみガス化実証実験

(1) 横浜市のごみに対する考え方

- ①「横浜G30プラン」は当初目標を達成
(平成22年度42.2%減(対平成13年度比))
- ②3R(Reduce, Reuse & Recycle)への
新たな展開⇒ごみを減らし、資源を有効活用
する「循環型社会」への展開
(「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」)

(2) 「循環型社会」への取り組み例

① 生ごみマイスター(生ごみ堆肥化)実証実験

概要:

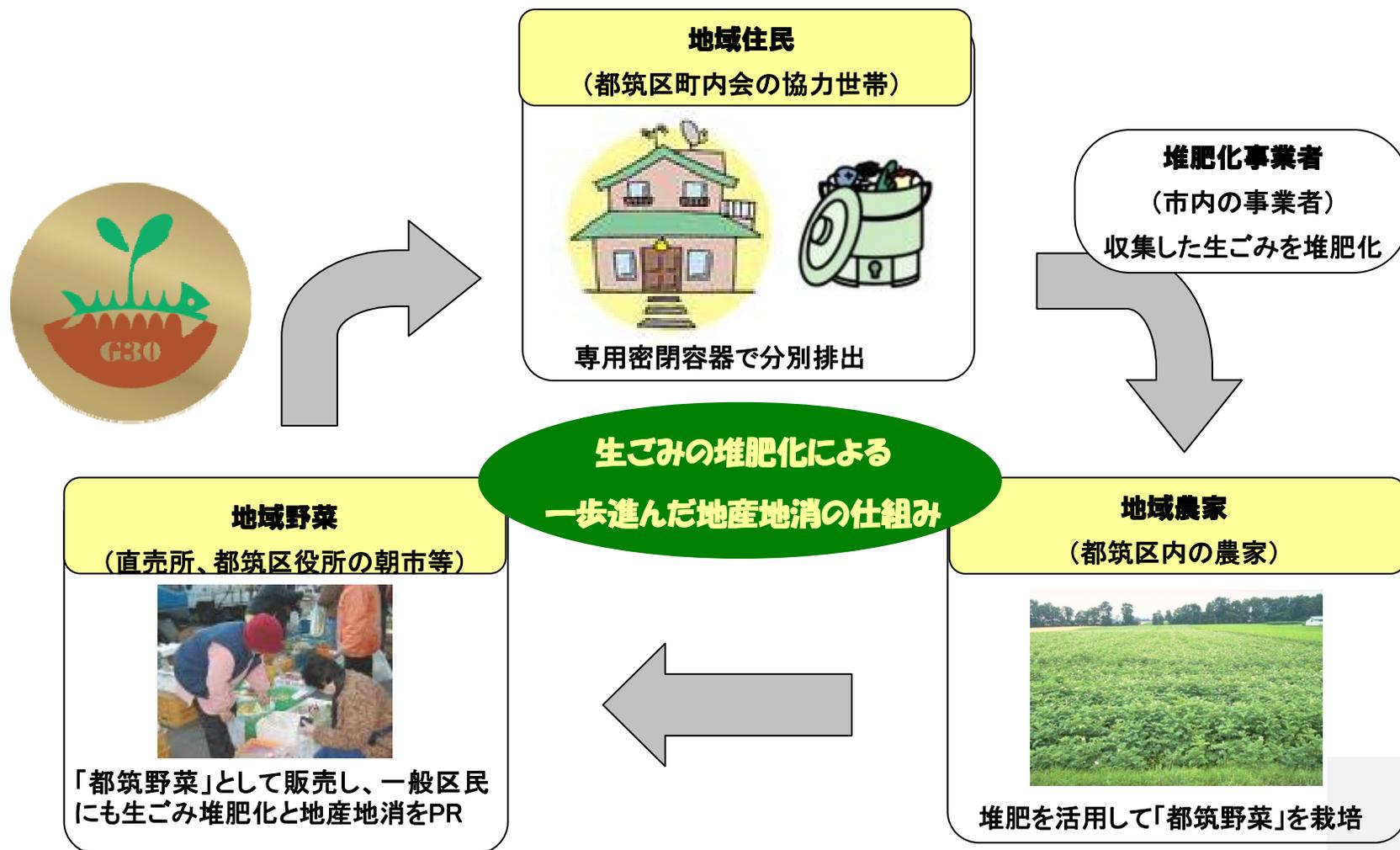
生ごみを分別回収して堆肥化し、できた堆肥を地域の農家で活用する実証実験。

都筑区佐江戸町など4地域、389世帯で平成20年10月から平成23年3月まで実施(総計41.4トンの生ごみを堆肥化用に収集)。

検証結果:

- ・コストが現行の焼却処理に比し約4倍
- ・収集のコスト低減策が必要
- ・堆肥化過程での温室効果ガスの約2割増
- ・分別精度の維持(実証試験期間中の異物混入率0.9%)の難しさ
- ・堆肥化した肥料の引取先(農家)の確保の難しさ

～生ごみの資源化(堆肥化)の実証実験～



② 家庭系生ごみガス化実証実験

概要:

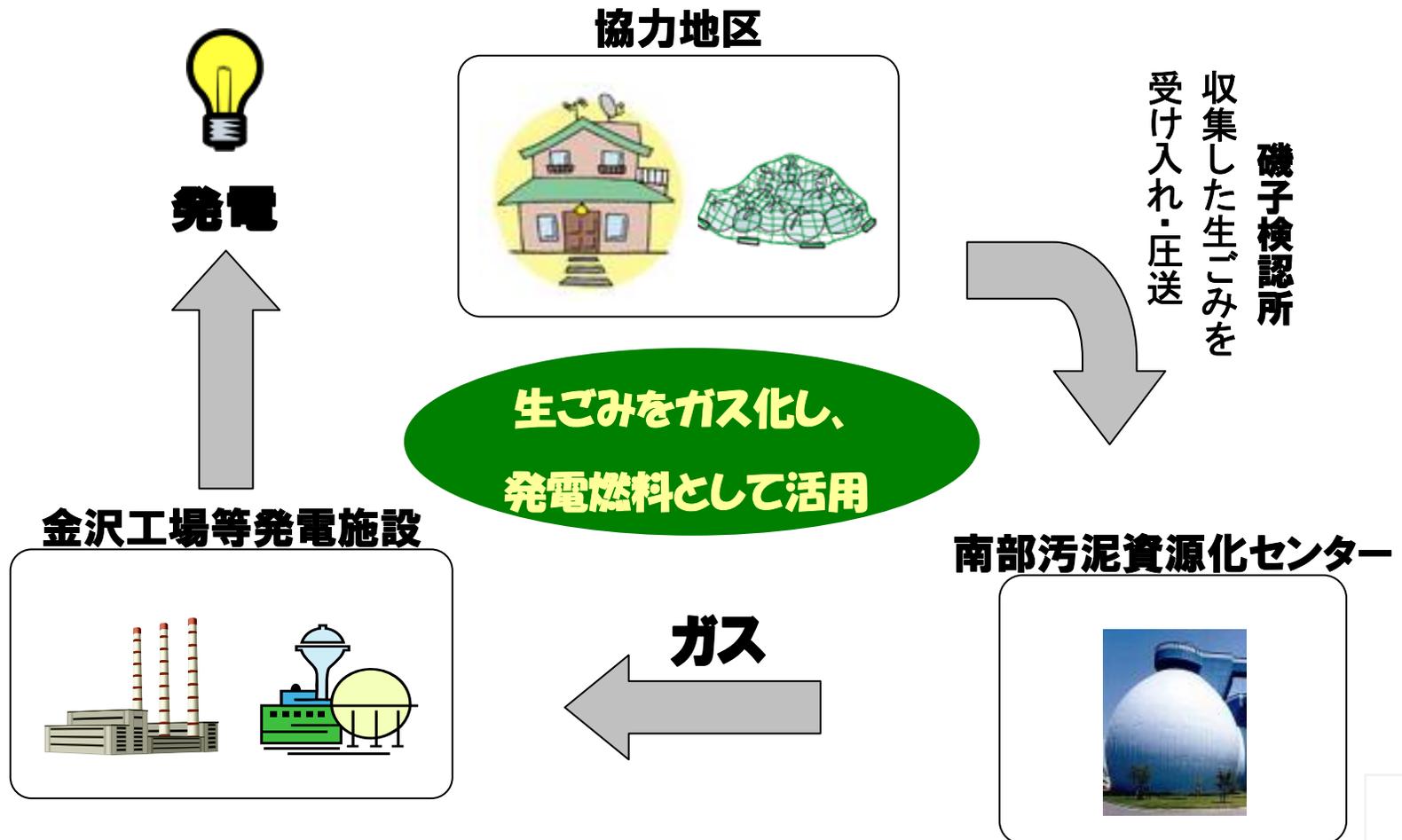
生ごみ(食べ残しや調理くずに限定)を分別回収して資源化(バイオマス化)し、そのガスを発電に利用、電力供給する実証実験。

平成21年12月より平成23年3月まで磯子区丸山第一町内会をモデル地区(900世帯の内450世帯が協力)として実施(総計82トン生ごみを回収、14,000m³のバイオガス化ができ、12,000KWh発電)。

検証結果:

- ・バイオガス化しての発電量は12,000KWh(3世帯の年間消費電力)と少ないが、生ごみの減量効果は大。
- ・全市展開の課題としては、バイオガス化施設が限られていること、生ごみ専用収集袋及び収集した生ごみの異物除去などに掛かる費用増がある。

～生ごみの資源化(ガス化)の実証実験～



(3) 横浜市の今後の対応など

横浜市は、生ごみ減量化の一環として、「生ごみマイスター(生ごみ堆肥化)事業」並びに「家庭系生ごみガス化事業」をどのように進めるかを、実証実験結果の検証を踏まえ、「家庭系生ごみガス化事業」を今年度中に再開する方向で調整を進めている。

7. まとめ

(1)「麻生区生ごみアンケート」結果や本日のフォーラムなどを参考に、より多くの区民の方が生ごみのリサイクル化や減量化に向けた取り組みが出来るよう検討していく。



<例>

生ごみ → リサイクル(堆肥化) → 堆肥の活用

*「堆肥を作る人」と「堆肥を使う人」の仲立ちする仕組みなど。

(2)他都市の事例や身近な取組事例などを参考にしながら、今後も検討を進めていく。